

「新しい日本の ODA」を語る会  
前回の議論の整理と第 9 回会合の進め方

1. マニフェスト作成に向けて

- ・ 緩やかな意味での「新しい日本の ODA を語る会のマニフェスト」を作ることをめざす。
- ・ 今後の会合において、マニフェスト案のイメージについて可能な限り具体的に議論したうえで、「マニフェスト作成委員会」を設置し、最終的なとりまとめ作業を行う。作成委員会には各界から参加いただく方向で構成する（メンバーは今後決定）。作成委員会で検討した最終案を本会合で提示、議論いただく。

2. 第 8 回の議論をふまえた整理・今後の留意点

- ・ 課題 3 「国際援助環境をリードする」（→改定）
- ・ 発信メッセージについては「二枚舌戦略」でのぞみ、対外的発信と国内的発信を使い分ける等の工夫が必要。マーケティング戦略という発想で単純化する。特に後者については国民が身近に感じるメッセージが重要。
  - 日本の「援助戦略」において、環境・省エネルギー等は重要な柱となることから、普遍性があり、地球公共財としての ODA や地球市民という意識を彷彿させるようなメッセージも必要か。
- ・ 「日本らしい援助」を内外に探ることは重要だが、内向的・抑制的にならないように、知的発信のあり方や実施体制の改善とあわせた努力が必要。
  - 日本らしさ（→第 8 回会合後の寄稿、ML から）
    - ①「途上国のニーズ」や「世界のベストプラクティス」と背反するものではなく、それらと「日本の内にある知恵」の全てをみすえて考え抜き、切磋琢磨し続ける中での、「日本が考える正しい道」。
    - ②日本が国際社会や途上国支援において実現したい普遍的価値の集積
- ・ ODA 予算の財源との関係で、環境等、国民の理解を得られやすい課題については特別な予算枠（例えば、「環境枠」）を設ける可能性も要検討か。

【参考資料】

- ODA マニフェストの作成に向けて（事務局たたき台 5/23 版）
- 第 8 回会合の概要

3. 本日のねらい 「提言： 実施体制の再構築・強化に向けて」

- ・ 上記 2. も念頭において実施体制の課題を検討する。その際、以下に示す各課題の相互関係にも留意して議論していく。
  - 課題 2 「途上国の現場、開発ニーズに応える」、課題 5 「実施体制を再構築・強化する」
  - 課題 6 「各種制度を改革・強化する」、課題 8 「民間セクター」（企業、NGO を含む）。

【参考資料】

- 第一回会合配布資料「新しい ODA 体制構築に向けて」

以上